SUPER GT 2018 REPORT
ジンクスを覆す 若きドライバーの挑戦が始まった

4月8日(日)、2018年最初のSUPER GTレースが岡山国際サーキットで行われた。
昨年シリーズチャンピオンを獲得した「KeePer TOM' S LC500」は37号から輝かしい1号へとナンバーを変えた。
ドライバーは昨年同様、最年少チャンピオンの2人、平川亮選手とニック・キャシディー選手。
チャンピオンを取った次の年は、チャンピオンは取れないというジンクスを覆すべく、情熱的で、冷静な走りを見せてくれた。

第1戦 岡山国際サーキット 4/7(土)予選 4/8(日)決勝
やっぱり岡山は速いぜ！！
#1 KeePer TOM' S LC500、3位表彰台！

低温がタイヤに影響し、予選9位

一気に真冬に逆戻りしたような極寒の岡山県の岡山国際サーキット、2018年スーパーGT開幕戦GT300㎞レース(82周)が開幕した。

前日に行われた公式予選においても気温の影響を大きく受け、タイヤが温まらず、なんと予想外の予戦Q2に進めない9位のポジションでレースをスタートする結果になってしまった。コース幅が狭く、オーバーテイクポイントの少ないこのサーキットにおいてのこのポジションは、決勝レースに向けて上位を狙うには非常に厳しいスタートポジションとなってしまった。

スタートから上位を抜き、トップに浮上！

今年も岡山県警交通機動隊の白バイ先導でのパレードラップを終え、フォーメーションラップの後、決勝がスタートした。

スタートドライバーのニック・キャシディー選手は前日の不振が嘘のような快走を見せ、オープニングラップでいきなり3台を抜き6番手にジャンプアップ！さらに積極的に前を狙い、8周目には5番手に上がる。その手を緩めずに15周目の第1コーナーでは6号車を抜いてLEXUS勢のトップに躍り出る。さらに1号車の快進撃は続き、前を行くライバルより2秒も早いタイムで追い続け22周目の第1コーナーで24号車をパスし表彰台圏内の3位ポジションを上げる。25周目には2位走行中の23号車にジャンプスタートでドライブスルーペナルティーが課せられ労せず2位へ浮上、残るはトップの17号車のみとなった。

徐々にトップとの差をつめてゆくキャシディー選手は32周目にはテールツーノーズの状態でトップとのバトルが始まり、38周目のバックストレートエンドにトップの17号車のイン側に飛び込み、接触しながらもオーバーテイク！なんと予戦9番手から一気にトップへ浮上した。

45周目、ピットインで4位に。NSXを猛烈に追う！

しかしこの接触のときにステアリングにダメージを負ってしまい、ハンドルが曲がった状態での走行を強いられることになり、今までと同じペースでの走行ができなくなってしまった。

1号車は45周目に予定通りのピットイン、タイヤ交換と給油を終え、ドライバーを平川亮選手に交代し戦闘再開！全てのマシンがピット作業を終えた時点での順位は4位。ステアリングのトラブルにより、ピットイン前のラップタイムが上がらなかったことと、100号車がタイヤ交換をしなかったことが要因であったが、ドライバー交代当初、曲がったステアリングに戸惑っていた平川選手も徐々に慣れ、ラップタイムも上がってきた57周目にLEXUSの6号車をパス。再び順位を3位表彰台圏内に戻し、15秒前を行くNSX勢2台を猛追する。

トップと約3秒差まで追い詰めるも3位

最終的に3秒差まで詰めるが2位には届かず、開幕戦を3位表彰台にて終えた。絶望的と思われた予戦9番手から3位表彰台は、気温とタイヤに翻弄されながらも上々のスタートであった。

第2戦 富士スピードウェイ 5/3(木)予選 5/4(金)決勝
#1 KeePer TOM' S LC500
予選9位から粘りの走行！確実にポイントゲット！

豪雨の影響で、予選は一発勝負。9位でのスタート。

極寒の開幕戦岡山大会から約3週間、初夏を思わせる天候の下、SUPER GT第2戦、ゴールデンウイーク恒例の富士500㎞レースが静岡県の富士スピードウェイにて開催された。

しかし、2日(水)の夜中から3日(木)の朝方まで降り続いた豪雨の影響で午前中に行われる予定のフリー走行とサーキットサファリが中止になり、予選の方式もQ1、Q2のノックアウト方式から20分間の一発勝負となった。

予選にはエースの平川亮選手がステアリングを握ったが、やはりウエイトハンデは重くのしかかり、さらにアタックラップにラップタイムの遅いマシンに詰まってしまい万事休す。結果的にはウエイトハンデが重いマシンの中では最上位であったが、9位という不本意なポジションからのスタートとなってしまった。

序盤先行を許すものの、順位を上げて6位まで浮上！

迎えた決勝日、若干風が強く吹くものの朝から好天に恵まれ5万5000人の大観衆が見つめる中、500㎞、110周のレースがスタートした。

今回は2回のピットストップがあることからエースの平川選手がスタートのステアリングを握る。序盤はウエイトハンデの軽いマシンに先行を許すつらい戦いが続くが、徐々にペースを上げ、22周目には順位を回復しスタートポジションに戻した。

35周目に予定どおりピットイン、タイヤ交換と給油を行いドライバーをニック・キャシディー選手へと交代しレースを再開した。

全てのマシンがルーティーンのピットインを終了した時点では、順位を8位に上げ、さらにペースアップ、43周目の1コーナーではジェンソン・バトン選手がドライブする100号車をパスし、7位まで順位を上げ、さらに前を行く8号車NSXをテールツーノーズで追い続け、45周目のレクサスコーナーでNSXのイン側に飛び込みオーバーテイク、6位に順位を上げる。

74周目ルーティーンピットインを行い、タイヤ交換と給油を行いドライバーを再び平川選手へと交代し、110周のゴールを目指す。

我慢の走行で、ポイントを確実に押える！

最終スティントン終了時点でも6位の順位をキープしてさらに前を狙うKeePerであったが、思ったほどペースが上がらず我慢の走行が続く。

残り2周のところでGTRに抜かれ最終順位は7位となってしまったが、22㎞のウエイトハンデを課せられながらも確実にポイントを稼ぐことができたレースであった。

シリーズランキングもLEXUS勢のトップタイの4位にて5月19、20日に行われる、KeePer技研の地元レースでもある鈴鹿大会に挑む！

2018年度 スーパーGT スケジュール

※開催日程は他の世界選手権レースの開催予定が変更された場合、変更されることもあります

第4戦	チャーン・インターナショナル・サーキット(タイ)	公式予選	6/30 (土)	決勝	7/ 1 (日)
第5戦	富士スピードウェイ(静岡県)	公式予選	8/ 4 (土)	決勝	8/ 5 (日)
第6戦	スポーツランドSUGO(宮城県)	公式予選	9/15 (土)	決勝	9/16 (日)
第7戦	オートポリス(大分県)	公式予選	10/20 (土)	決勝	10/21 (日)
最終戦	ツインリンクもてぎ(栃木県)	公式予選	11/10 (土)	決勝	11/11 (日)